

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月21日
札幌市立西園小学校

1 本年度の重点目標

「明るい未来に向かう子どもの育成」

2 本年度の経営方針

- 「信頼される学校づくり」の推進 ・教科横断的な教育課程の編成 ・日課の見直し
- 「学習指導の充実」 ・課題探究的な学習を取り入れた日常の授業改善 ・一人一台端末の効果的な活用
・学び合う教職員 ・家庭と連携した学習習慣づくり ・校内の教育環境整備、外部人材の活用
- 「生徒指導」の充実 ・安全教育、健康教育の推進 ・体力向上や運動習慣づくりの取組 ・ルールやマナーの指導
・地域、家庭と連携した生活習慣づくり ・いじめ、不登校の未然防止
- 「人間尊重の教育」の推進 ・道徳教育の推進 ・子どもの自治的活動の推進 ・特別支援教育の推進 ・異学年交流

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
知・徳・体の調和のとれた育ち	学ぶ力 日々の研究、研修を授業改善に生かし、子どもが自ら考え、判断し、表現する活動を推進した。	A	「自ら進んで考え、行動する子」の育成を目指し、子どもが楽しく学んでいくことができる授業実践を積み重ねた。専科指導、学びのサポーターや学生ボランティアの活用を充実させ、子どもたちの学ぶ意欲を支え、学ぶ力の育成に繋げた。次年度は、子どもたち自らが学習課題を見付け、解決に向けて粘り強く取り組み、学ぶ楽しさを実感できるよう授業改善していく。	A	A
	豊かな心 道徳の授業や行事、学級活動などを通して、相手を思いやる心を育んだ。	B	アンケート結果から、児童・保護者・教職員ともにここ数年で一番高い数値となりました。異学年交流(1年生のお世話、集会など)や道徳の授業を通して、相手への優しさ、思いやりのある言葉かけや行動などがたくさん見られた。本校で大切にしている3つの「あ」については、「あいさつ」「あんぜん」で、まだ満足できる状況にはない。子どもたちが自ら考え、行動する機会を学校全体でつくっていき、児童・教職員が適切に振り返ることで意識を高めていくことができるようにする。	A	A
	健やかな体 体育学習や休み時間などに積極的に体を動かし、体力向上に努めた。	B	運動会の団体リレー、遠足で歩く距離を長く設定、縄跳びチャレンジ(個人、集団)、休み時間の活動(投げる運動に挑戦、外遊び奨励等)等工夫して取り組んできたが、成果を実感できるほどではなかった。次年度は体育館が使用できない期間もあるので、プラス思考で活動を工夫していきたい。また、体だけでなく心の健康にも着目し、挑戦したり頑張り続けたりしたことを認め、価値付けていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間、子どもと先生は、元気で明るく学校に来ていたと思う。 ・先生方の努力が、子どもたちの成長に繋がっている。 ・参観日での授業の進め方が素晴らしかった。 ・体力低下が数値にも表れている近年、楽しみながら日々鍛錬していただければ基礎体力が向上すると考えられますのでよろしくお願いたします。 				
ICT	タブレットなどを積極的に活用し、学習に役立てることができた。	A	日常的に学習や教育活動の中で、調べ学習、グループ学習や学級全体の意見交流、プレゼン制作、ドリル学習など学年に応じた方法でタブレットを活用することができた。また、タブレットの効果的な使い方を教職員で共有することで、学年や教科に合った実践につなげることができた。情報モラルについて、定期的に家庭へも情報を発信することで、安全な使用についての知識を積み重ねている。	A	A
連携・協働	HPやお便り、説明会や懇談会を通して、家庭や地域と一体になった学習・生活習慣を作ることができた。	A	学校HPに、日々の子どもの様子や学校からのお知らせなどを発信することで、家庭や地域との情報交流に努めた。「すぐー」では、毎日の欠席・遅刻・その他の連絡を学校全体で共有することで、効果的に活用することができた。参観懇談や学校行事など、保護者が直接学校の様子を見ることが出来る機会を計画的に設定し、ご家庭と情報を共有することで、子どもたちの成長に繋げていく。	A	A
業務改善	教職員の負担軽減を図りながら、教育の質の向上に努めた。	A	今年度は、4月に全学年5時間授業とする取組を行った。業務多忙となる時期に放課後の時間の確保ができ、業務の負担軽減を図ることができた。教職員だけでなく、新しい環境の中で緊張感が続く児童にとっても、効果のある取組だった。次年度も、教育の質の向上に繋がる有効な手立てとして実施していく。	A	A
いじめ対応	いじめの未然防止や解決に向けて取り組むことができる。	A	「いじめ対策委員会」の開催(月に1回)、いじめアンケートの実施(年に3回)、シャポテソングでの心と体の健康報告(毎朝)などを実施し、いじめの早期発見・解決ができるよう情報を共有することができた。児童への聞き取りや、児童が「誰かに話したい」気持ちを大切に、いじめの未然防止に努めた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は子どものために、一年間明るく元気に学校に来てくださった。 ・先生方の苦勞が報われると思う。 ・すぐーやHP配信頻度が高く、感謝しています。働き方改革を進めるためにも、保護者への協力依頼もご遠慮なくしてください。 				